

区立赤塚体育館施設概要書

1 施設整備の背景と状況

(1) 経緯・背景

本体育館は、昭和 56 年に体育館棟が完成し、その後、平成 5 年に同敷地内にプール棟が建てられており、時代に応じて機能が追加されてきた。

現在、体育館棟は築 44 年となり、改修の時期を迎えている。また、他の区立体育館と比較すると、武道場の設置が無く、アリーナの面積も比較的小規模なものであり観覧席の設置も無いなど、体育館の機能としては不足しているものが多い。

また、プール棟は築 32 年と、体育館棟と比較して築年数は浅いものの、プールの塩素等による設備類の老朽化が著しく、近年は設備故障による一部休館が発生している。また、体育館棟とプール棟が独立しているため、利用者動線や管理・運営上の課題がある。

これらの課題解決のため、両棟を一体的に接続させることで、利用者満足度と運営効率の両立を目指す。同時に、限られた敷地の中で多様なニーズに応えられるよう、施設機能を重層的に構成する必要がある。

以上のことから、赤塚体育館全体を範囲とした再整備について検討を行うこととした。

(2) 施設周辺の概況及び主な施設等

区立赤塚体育館は、東武東上線成増駅から徒歩 12 分程の位置にある施設である。施設周辺には赤塚小学校のほか、赤塚支所や赤塚植物園、区立美術館などの区立施設が設置されている。

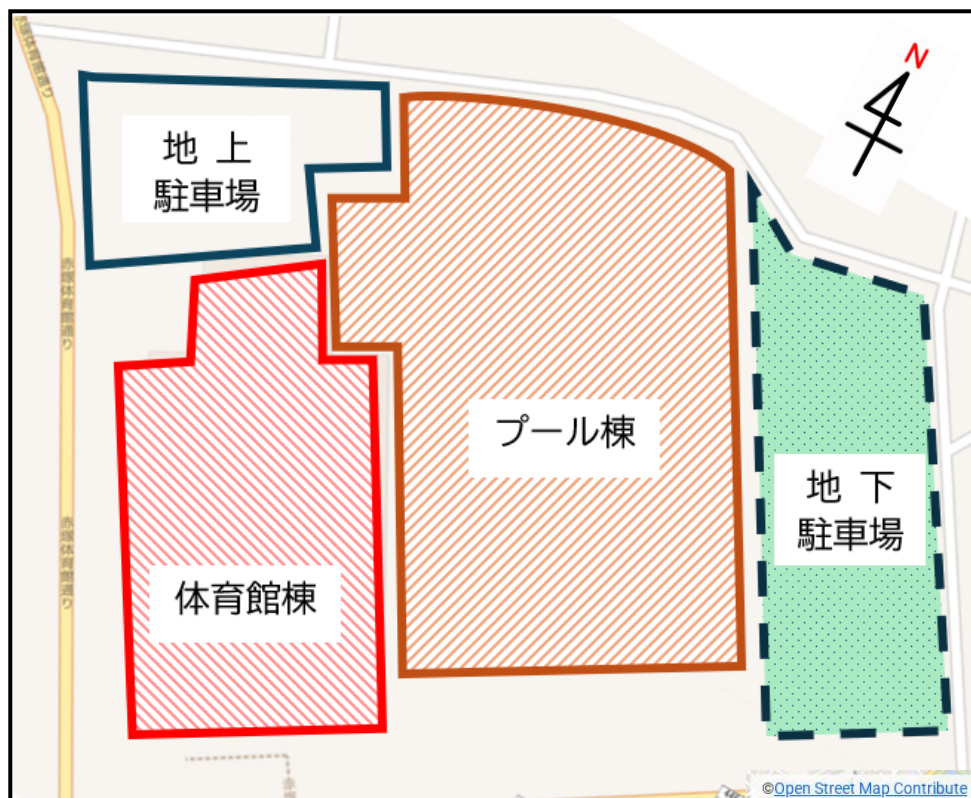
周辺の公共施設配置状況は、下図のとおり



2 敷地・既存建物概要

(1) 概要

	体育館棟	プール棟
所在地	赤塚五丁目6番1号	
構造	RC造 地上3階	RC造 地上1階・地下2階
建築年	昭和56年(築44年)	平成5年(築32年)
敷地面積	7,138.66㎡	
建築面積	1,387.98㎡	319.75㎡
延床面積	2,677.48㎡	4,196.13㎡
諸室構成	アリーナ スタジオ(2) トレーニング室 事務室 更衣室 多目的広場 地上駐車場 駐輪場	温水プール(大・小) 会議室 地下駐車場 更衣室
法令制限	用途地域:第一種中高層住居専用地域及び第一種住居地域 建蔽率:60% 容積率:200% 防火規制:準防火地域 最高限度高度地区:17m 第二種高度地区	



(2) 諸室構成

棟	フロア	室名称	規模(㎡)	主な利用目的
体育館棟	1階	事務室	90㎡	受付・案内
		第1スタジオ	150㎡	各種教室・レッスン等
		第2スタジオ	88㎡	各種教室・レッスン等
		トレーニング室	225㎡	トレーニングスペース
	2階	競技場	938㎡	個人・団体競技室場
	3階	競技場ギャラリー	224㎡	待機スペース
プール棟	1階	ロビー及びEVホール	260㎡	待機スペース
	地下1階	プールギャラリー	90㎡	プール観覧スペース
		会議室	60㎡	会議スペース
	地下2階	プール	1,060㎡	プール利用
		プール入場ロビー	1,112㎡	待機スペース
少年運動場	1階	少年運動場	3,365㎡	多目的利用
地下駐車場	地下1階	駐車場	1,099㎡	駐車場

(3) 利用状況

① 開館時間等

ア 利用時間

トレーニング室 月～金 午前9時～午後11時
 土・日・祝 午前9時～午後9時
 競技場 午前9時～午後9時
 プール 月～金 午前10時～午後10時20分
 土・日・祝 午前10時～午後8時20分

イ 休館日

毎月第3月曜日（国民の祝日にあたる場合はその翌日）
 年末年始

② 利用者数

室場	令和4年度	令和5年度	令和6年度
アリーナ	33,840人	36,035人	39,973人
スタジオ	33,139人	32,407人	37,354人
トレーニングルーム	47,503人	49,096人	49,016人
プール	36,879人	33,574人	46,543人
会議室	1,131人	1,625人	1,221人
合計	152,492人	152,737人	174,107人

3 施設整備の方向性

(1) 区立赤塚体育館再整備のコンセプト

本体育館は、他の区立体育館に比べてコンパクトであり、また農業まつりなどの文化イベントが開催されるなど地域に密着した施設でもある。加えて、近年は様々なニュースポーツが誕生しており、区としても様々なニーズに応じられるような施設デザインを考えていく必要がある。

再整備にあたっては、これらの強み・特色を生かしつつ、さらに魅力的な施設とするべく以下のコンセプトを基に検討を進めていく。

誰でも気軽に立ち寄れる「コミュニティスポーツパーク」

コミュニティスポーツパークとは、従来のスポーツ施設機能に加え、地域住民が自然に集まり、スポーツや遊び、交流など世代や目的を超えた交流が偶発的に生まれる多機能空間を指す。各棟や屋内外が連続性を持って機能し、地域特性や利用者ニーズに応じて柔軟に活用される地域交流拠点を目指す。

(2) 区立赤塚体育館再整備の基本的整備方針

本体育館の再整備にあたっては、以下に示す3点を基本的な整備方針として掲げる。

- ① 地域体育館として基本的機能の強化
- ② 誰でも気軽に立ち寄れる空間の整備
- ③ すべての方が安心して来館できる環境の整備

(3) 施設の課題及び整備の方向性

① アリーナの拡大及び観覧席の整備

本体育館のアリーナは、学校施設の体育館のような設えとなっており、他の区立体育館と比較すると面積は小規模で、観覧席の設置もない。そのため、各種競技の公式サイズのコート確保が難しく、大会の開催等についても不向きである。

今後、現在よりも多様な競技の実施や、各種競技の公式大会を実施するためには、アリーナの拡大及び観覧席の整備が必要である。

② 武道場の新設

本体育館は、区立体育館の中でも唯一武道場を有していない施設であり、区民及び関係団体等から武道場を新設する旨の要望が多く挙がっている状況である。

赤塚地域の住民に武道を行うことができる環境を提供するとともに他施設との均衡を図るためには、本体育館においても武道場の提供が必要である。

なお、武道場を新設するには、一定程度の階高を設けなければならない点を踏まえると、既存体育館棟での設置は難しい。

③ 体育館棟及びプール棟間のアクセシビリティ向上

本体育館の体育館棟とプール棟は、それぞれ竣工年が異なっており、別々の建物として独立している。そのため、各棟の接続がなく、利用者にとって利便性が低い状況である。また、施設管理側としても導線が複数あることにより管理を行いにくい状況となっているため、アクセシビリティの向上が必要である。

④ 駐車場の整理

本体育館は、北西側に地上駐車場、東側に地下駐車場が設置されている。しかしながら、地下駐車場は使い勝手の悪さから利用率は低く、活用できていない状況である。そのため、駐車場に対する現在の需要を踏まえ、利用者が今よりも利用しやすくなるような改善が必要である。

⑤ 屋外機能の整理

プール棟屋上は、少年野球場として利用されているが、十分な広さがなく、また稼働率も高くない。今後は、競技に縛られることなく、多目的なスポーツや屋外活動に資する広場として再整備する。また、整備にあたっては、「⑦ 都道からの視認性」に記載のとおり、賑わい創出や利便性を考慮する。

⑥ プール棟の整備・活用

前述のとおり、本体育館のプール棟は、体育館棟と比較すると築年が浅い施設であり、躯体は健全である。しかしながら、空調機器や水質ろ過に関する機器がプールに隣接していることから、各種機器への塩素による影響のため、各種設備の老朽化が著しい状況となっている。また、体育館棟と比較すると余空間が多いものの、現状では活用出来ていないエリアが存在している。そのため、設備の更新及びゾーニングの見直し等が必要である。

⑦ 都道からの視認性

本体育館は、バス通りである都道 445 号長後赤塚線側(通称：松月院通り)沿いに面しているものの、通りからの視認性が悪く、体育館であることが一目では分からない施設となっている。また、この都道に面した入口も存在しないことから、利用停滞を招いている状況でもある。

そのため、都道側からのアクセスや、視認性向上、賑わいの確保について検討する必要がある。

⑧ バリアフリー化対応

本体育館の体育館棟は完成後 40 年を経過しており、エレベーターが設置されていない。このため、車いす利用者の方が 1 階から 2 階にある室内競技場へ移動するためには、体育館棟外部に設置されているスロープを利用する必要がある。ところが、本スロープは車いす利用者が移動するのに適さない角度の斜度があるとともに、老朽化に伴う著しい床面劣化が進行している。これらの状況により、体育館棟は車いす利用者の方にとって利用しにくい状況となっている。

また、多目的トイレを含む各種トイレの間口も狭く、車いす利用者の視点に立つと使い勝手がよいものとはいえない。

加えて、③で述べたとおり体育館棟とプール棟の接続もなく、バリアフリー面の配慮が脆弱である。

そのため、本再整備の検討を機に、バリアフリーの対応をしていく必要がある。

(4) 各棟の考え方について

上記(1)～(3)を踏まえ、各棟の再整備については、以下を基本とする。

① 体育館棟

アリーナ、武道場や交流機能（カフェ、ギャラリー）等、既存躯体では対応が難しくなる要件があるため、改築を視野に入れて再整備を行う。その際、プール棟と一体的に接続し、効率的な導線確保と、重層化した機能配置を実現する。

② プール棟

長寿命化を基本として体育館棟との接続を考慮した再整備を行う。体育館棟と一体的に接続し、必要に応じて既存躯体の一部を減築し、両棟が一体として機能するようにする。

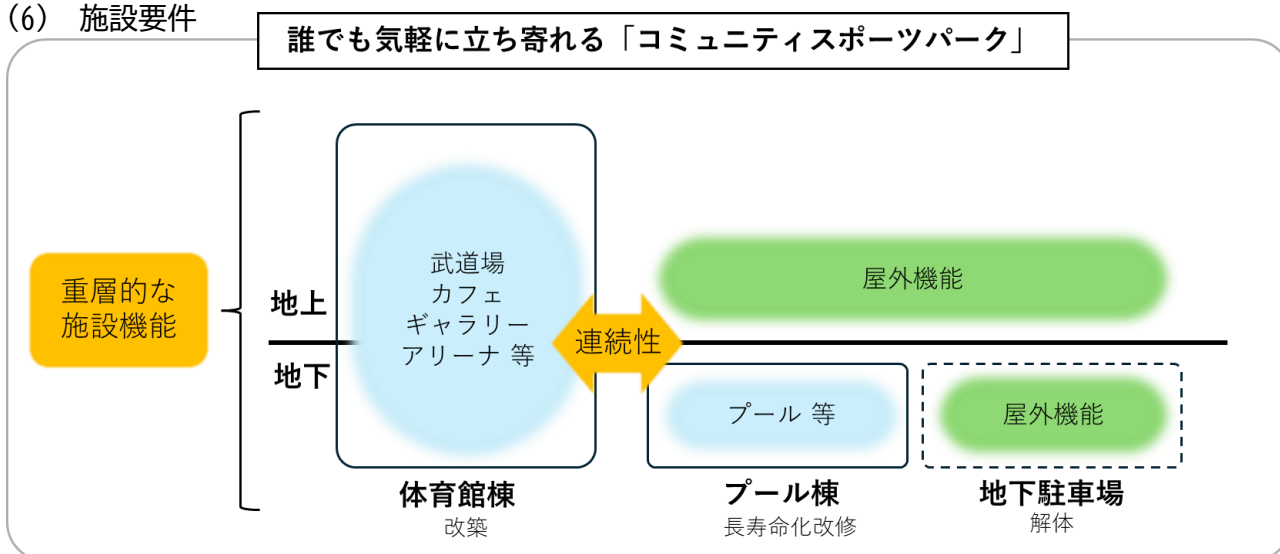
③ 地下駐車場

現状の利用率及び設備等の状況を踏まえ、別用途での有効活用を図るものとする。付置義務台数を満たしつつ、必要に応じて解体による外部空間の創出により、屋上広場との一体的な活用や前面道路からの繋がりを意識した設えとする。

(5) その他留意事項

改修工事中は、代替施設は設けず、利用者には他4館の利用を求める予定である。

(6) 施設要件



諸室	必要規模(想定)	備考
アリーナ(競技場)	980 m ² 以上	・バスケットボールコート (25m×15m以上)2面 ・観覧席 500 席程度
武道場	1室あたり 196 m ² 以上	・2室想定 ・可動間仕切りで多用途に使用 可能な設えを想定
トレーニングルーム	既存同等	・既存 300 m ² (15m×20m)
多目的室	300 m ² 以上	・2室もしくは3室に分割できる ような設えを想定
カフェ・ギャラリー	1つ	・多目的な用途も可能な想定
会議室	既存同等	・既存 60 m ² (8m×7.5m)
大プール	既存同等	・既存(25m×6レーン)
小プール	既存同等	・既存(約 18 m ²)
更衣室	1室あたり 100 m ² 以上	・既存プール棟内更衣室のほか、男女1対を追加する想定

※施設要件は、現在の区を取り巻く状況を基に簡易検討した諸室ごとの要件案の一例であり、決定しているものではない。そのため、プロポーザルにおける提案は、本検討案にとられない具体的な提案や自由な発想による提案を求める。

4 整備スケジュール(予定)

令和8年度	プロポーザルによる設計事業者の選定
	基本・実施設計 着手
令和10年度	基本・実施設計 完了
	再整備工事 着手
令和13年度	再整備工事 完了・供用開始

5 配置図・平面図

別添参照

6 参考資料

各体育施設の概要、施設規模、利用実績、現況及び課題等については、以下資料を参照のこと。

- (1) 区議会報告資料「赤塚体育館再整備の方向性について（令和8年2月16日、区民環境委員会資料）」

<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/kugikai/kaigishidai/iinnkaishidai/kuminkankyo/1061942/1062012.html>

- (2) 区立赤塚体育館ホームページ

<https://www.shisetsu-tds.jp/tokyo-itabashi-akatsuka-taiikukan/>

- (3) いたばし No.1 実現プラン 2028「公共施設等ベースプラン」（資料編）

<https://www.city.itabashi.tokyo.jp/kusei/seisakukeiei/kihon/1007073.html>